

< 高付加価値型農業の実践を目標としている事例 >

特産品「つくね芋」で地域も体も元気に！

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	青森県 <small>ごしよがわらし</small> 五所川原市 <small>とぎわ</small> 戸沢				
協定面積 94.4ha	田(100%) 水稲、小麦、大豆	畑	草地	採草放牧地	
交付金額 755.5万円	個人配分			50 %	
	共同取組活動 (50%)	担当者活動経費			8 %
		鳥獣害防止対策及び水路・農道等の維持管理等経費			8 %
		体制整備に関する活動経費			2 %
		農用地維持管理活動経費			3 %
		交付金の積立・繰越			24 %
その他(事務費等)			5 %		
協定参加者	農業者 63人				

2. 取組に至る経緯

当集落は古くから農業が盛んな地域で、多くは水稲を作りながら他へ働きに出ている兼業農家であるが、近年の米価低迷等による農業離れの進行及び高齢化による耕作放棄地の拡大が懸念されることから、本制度に取り組むこととした。

3. 取組の内容

取組の一つとして、集落で担い手を定めて農作業の委託を行うほか、農業収益確保のため、JAごしよがわらし市が栽培を奨励している収益性の高い「つくね芋」の栽培を開始した。また、稲わら収集機を導入して水稲収穫後の「わら焼き公害」の発生を防ぐなど、環境対策にも力を入れている。

このほか、近隣の小学校と連携して「つくね芋」の植え付けや収穫体験を行ったり、集落内にある神社の宵宮を開催するなど、地域との結びつきを強める活動も行っている。



学童農園での「つくね芋」植え付け作業



つくね芋の出荷作業

[集落の将来像]

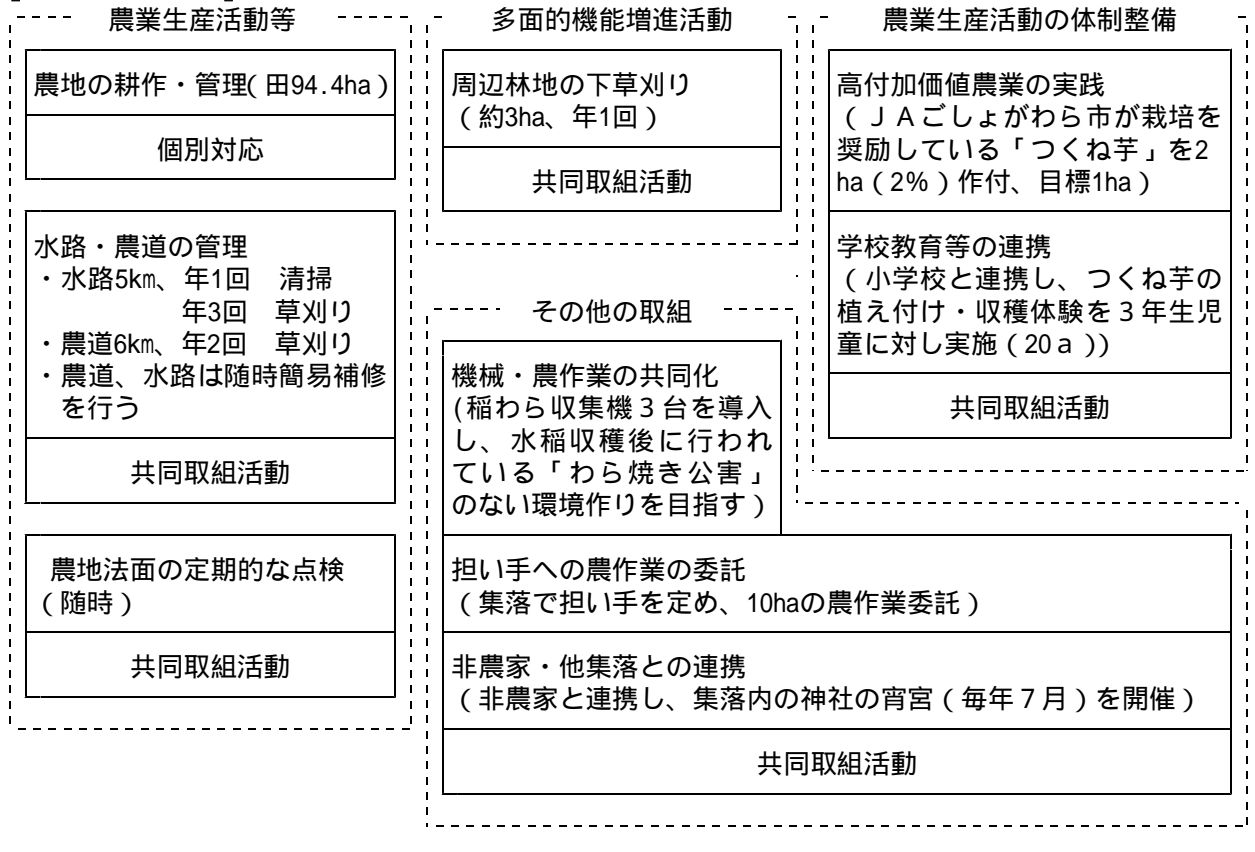
集落内の農地の耕作放棄発生防止及び保全に努め、周辺の雑草地、林地等の刈払いや農道、水路、法面等の整備を行い、住みよい地域作りを目指して集落内の住民全員で取り組んでいく。



[将来像を実現するための活動目標]

農業収益の向上を目指した高付加価値型農業の実践
 地域活性化に向けて近隣の小学校と連携した収穫体験や地域のイベントの実施
 集落営農の体制づくりのため、農作業委託を推進

[活 動 内 容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

新規作物として「つくね芋」を導入したところ、収益性が高いことから栽培面積が当初の目標に比べ2倍となり、今後更なる増加が見込まれている。反面、規格外品も多く発生することから、栽培技術の向上が課題となっている。

[平成20年度までの主な成果]

- 高付加価値型農業の実践による農業収益の向上
 - ・「つくね芋」の栽培(当初0a、目標1ha、H20実績2ha)
- 担い手への農作業受託による作業の効率化(当初0ha、目標5ha、H20実績10ha)
- 学校教育等との連携した保全活動
 - ・近隣の小学校(1校)と連携して学童農園(20a)を開設し、つくね芋の植え付け・収穫体験を行っている。